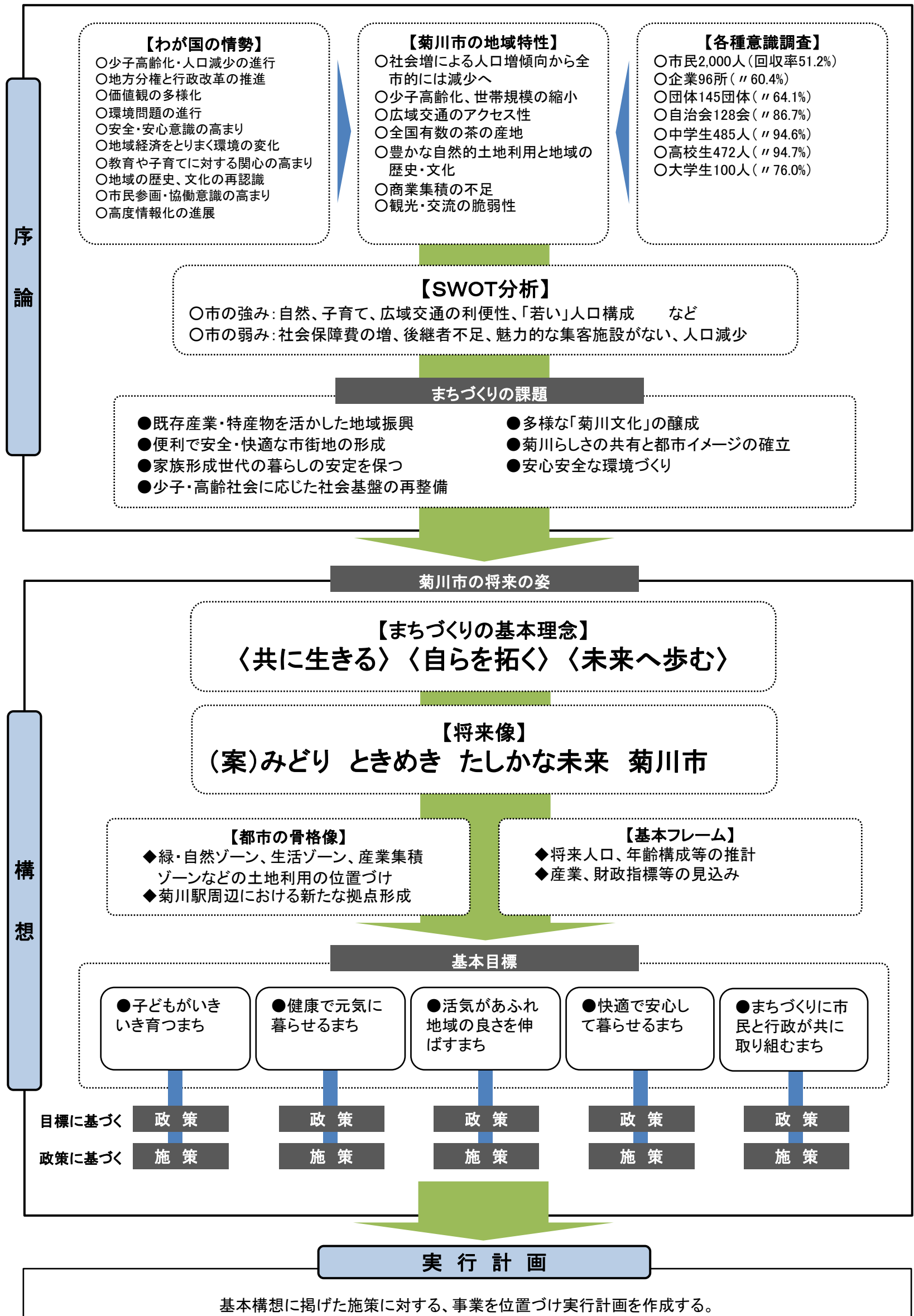
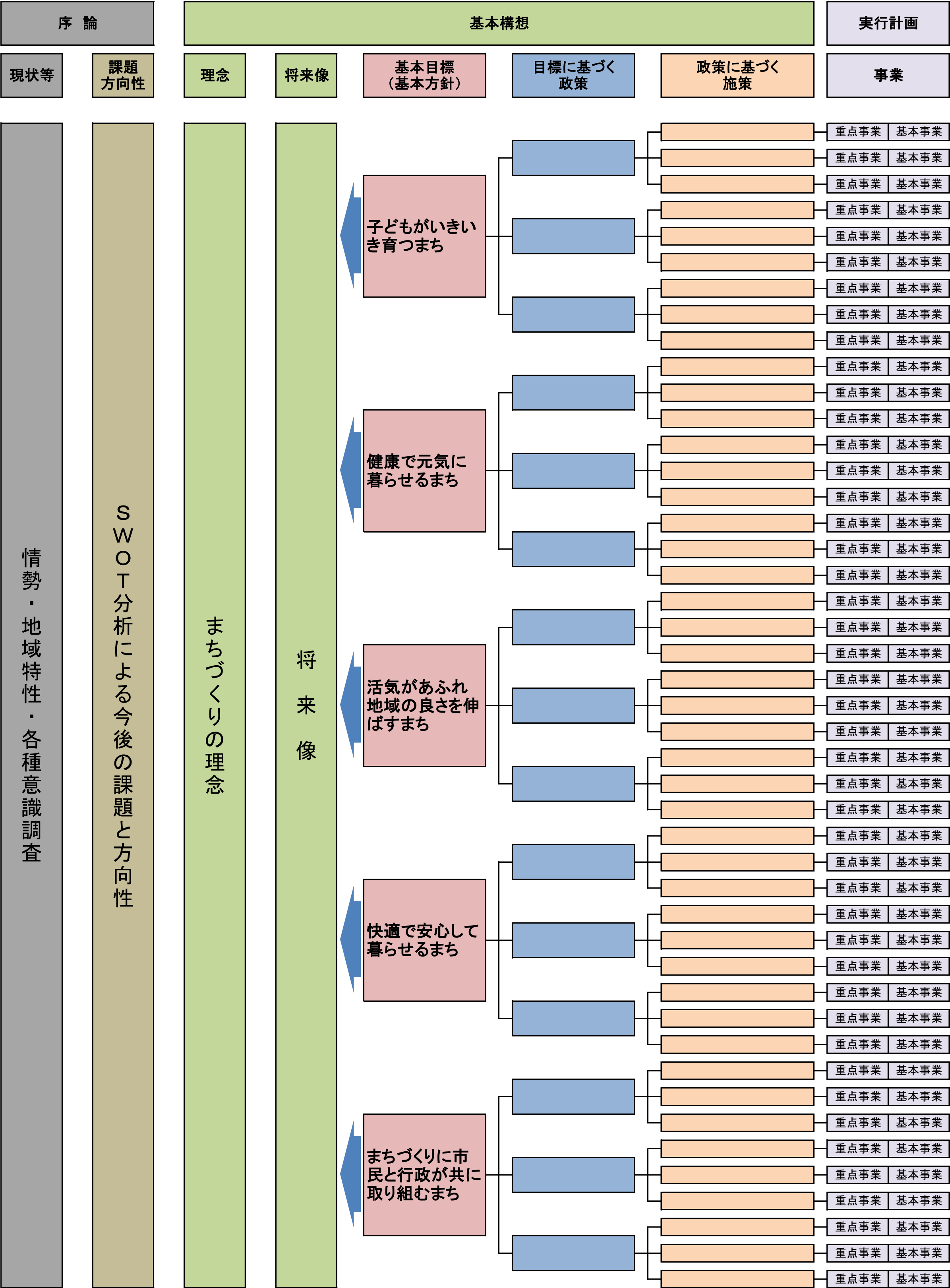


資料2

第2次菊川市総合計画「基本構想」の骨子(案)



第2次菊川市総合計画体系図



SWOT分析による課題と方向性、まちづくりの基本目標・方針(案)

＜菊川市の地域特性(SWOT分析)＞

成長戦略(強みによって機会をさらに活かす)

- ①自然資源、風景を活かした菊川市のイメージアップ
- ②環境と共生するまちづくりの実践
- ③子育てしやすい、子どもにやさしいまちとしてのブランド向上
- ④ICT環境を活かした教育力の向上
- ⑤今後の国際大会開催などを背景にした「スポーツ文化」の醸成
- ⑥健康都市としてのイメージアップ
- ⑦(内陸フロンティアを拓く取組等)広域プロジェクトの推進による市内産業の活性化
- ⑧自然資源、特産物の地域ブランドとしてのブラッシュアップや6次産業化などの展開
- ⑨「お茶」を活かしたブランドイメージの見直し、更なる発信
- ⑩地域のつながりを活かした防災、減災対策の充実
- ⑪広域交通アクセス性を活かした公共交通の充実
- ⑫菊川駅周辺等の都市拠点の充実
- ⑬鉄道駅、ICといった広域交通拠点を中心にした利便性の高い市街地形成を維持
- ⑭市民の「地域愛」の醸成や市民参加による、住み良いまちの環境維持

回避戦略(強みで脅威を回避・克服する)

- ①残存する自然環境の保全と共生
- ②生活コストの見直し等経済性を意識した無駄のない日常生活の実践
- ③居住や子育てに対する環境の優位性を維持
- ④伸びのび学ぶことのできる環境の維持
- ⑤各世代がスポーツに親しめる環境づくり
- ⑥既存病院の立地を活かした地域に密着した医療の充実
- ⑦地元中小企業等の支援による市内産業力の底上げ
- ⑧農業生産の体制・環境の改善
- ⑨お茶などの市の特産品による地域独自ブランドの確立と収益性の確保
- ⑩様々な災害リスクへの対応強化
- ⑪既存交通拠点の利用促進
- ⑫開発コストを抑えた駅周辺整備の促進
- ⑬通過利用者に向けた菊川市のPR等
- ⑭転入人口、若年齢層人口の定着による都市活力の維持

改善戦略(機会を逃さないように弱みを改善する)

- ①自然と調和した屋外環境(施設・公園・空き地等)の整備
- ②学力の向上、進学に対する相談機会等の充実
- ③スポーツ、地域文化に対する市民の関心を醸成
- ④市民の見守りに基づく地域コミュニティ機能の充実(地域福祉の展開)
- ⑤産業活動における新規参入の促進
- ⑥菊川の「特産物」のPR
- ⑦広域交通アクセス性を活かした市外からの人の誘導
- ⑧災害危険箇所の再確認と地域の協力に基づく整備の推進
- ⑨広域交通網とのアクセス性向上(コミバス・道路整備等)
- ⑩菊川駅周辺市街地の改善
- ⑪生産活動と居住、自然環境のバランスに配慮した市街地形成
- ⑫住民主体による地域に身近なまちづくりの展開

改革戦略(最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する)

- ①暮らしに身近な(商店、各種生活サービス機能を有する)施設の確保
- ②高等・専門性の高い教育機関の誘致検討
- ③スポーツに親しむ機会の充実、啓発活動の推進
- ④安定的な財源確保と効率的な福祉サービスの実践
- ⑤雇用促進策の展開
- ⑥農業従事者の多面的な確保
- ⑦菊川駅周辺等の再活性化の推進
- ⑧ハザードマップ等の見直し、周知
- ⑨交通機関へ利便向上の要請
- ⑩公共施設ストックの適切な維持・管理及び整備の推進
- ⑪菊川駅周辺地域の外部からの吸引力向上
- ⑫若年世代に対する菊川市の住み良さ等のPR
- ⑬安心安全な地域生活環境形成

＜まちづくりの課題と方向性(案)＞

①既存産業・特産物を活かした地域振興

- ・既存産業力の維持や雇用の確保
- ・特産物を活かした6次産業化など新たな地域振興の展開
- 【成長戦略⑦⑧⑨／回避戦略①⑦⑧⑨／改善戦略⑤⑥／改革戦略⑤⑥⑫】

②便利で安全・快適な市街地の形成

- ・適正な土地利用の誘導や利便性の高い公共交通網の形成
- 【成長戦略⑩⑪⑫⑬⑭／回避戦略①⑩⑪⑫／改善戦略⑧⑨⑩⑪／改革戦略⑦⑧⑨⑩⑪】

③家族形成世代の暮らしの安定を保つ

- ・働く世代の定住促進支援、生活に身近な生活利便施設の確保
- 【成長戦略③／回避戦略③⑭／改善戦略①⑪／改革戦略①④】

④少子・高齢社会に応じた社会環境の再整備

- ・子どもからお年寄りまですべての市民の暮らしに身近な環境の整備
- ・公共ストック・サービスの適正な維持・管理
- ・安定的な福祉、医療サービスの提供
- 【成長戦略③／回避戦略②⑥／改善戦略②③④】

⑤多様な「菊川文化」の醸成

- ・教育、文化、スポーツ活動などを通じて、菊川市の個性を磨く
- 【成長戦略④⑤／回避戦略④⑤／改善戦略②③／改革戦略②③】

⑥菊川らしさの共有と外部に向けた都市イメージの確立

- ・「住み良いまち」といった、菊川ブランドの確立と、外部への発信力の向上
- 【成長戦略①②⑥／回避戦略⑬／改善戦略⑦／改革戦略②③⑪】

⑦自助・共助・公助による安心安全な環境づくり

- ・住民、地域の主体による生活に身近なまちづくりの展開
- 【成長戦略②／改善戦略③④⑫／改革戦略⑩⑬】

＜まちづくりの基本目標・方針(案)＞

〇子どもがいいき育つまち

- ＜キーワード＞
- 【子育て・教育】③④⑤⑥⑦
- ※子育て支援の充実③④⑦
- ※子育て環境(幼稚園・保育園等)の充実③④⑦
- ※学校教育の充実④⑤
- ※スポーツ振興④⑤
- ※教育力の向上⑤⑥
- など

〇健康で元気に暮らせるまち

- ＜キーワード＞
- 【医療・福祉・保健・社会教育】③④⑤⑥
- ※健康づくりの推進③④
- ※福祉サービスの充実③④
- ※介護保険事業の推進③④
- ※健康スポーツの振興③④
- ※医療の充実④
- ※社会教育の充実⑤⑥
- など

〇活気があふれ地域の良さを伸ばすまち

- ＜キーワード＞
- 【産業】①②③⑦
- ※市内産業(農工商)の活性化①
- ※雇用体制の強化①
- ※6次産業の展開②
- ※企業誘致の推進・創業支援体制の充実③
- ※地域ブランド・特産物のPR⑦
- など

〇快適で安心して暮らせるまち

- ＜キーワード＞
- 【社会資本整備・環境・防災】①②③⑦
- ※生活・自然環境の整備と保全①
- ※公共交通の充実②
- ※都市拠点・市街地形成の推進②
- ※防災・減災対策の充実強化②⑦
- ※公共施設の適正な管理③⑦
- など

〇まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち

- ＜キーワード＞
- 【コミュニティ・自助・共助・公助】①②④⑤⑥⑦
- ※協働のまちづくりの推進①④
- ※地域コミュニティの充実①④⑦
- ※菊川市のイメージアップ・PR①⑥
- ※若者参加コミュニティの形成①⑦
- ※市民活動の推進②⑤
- など

第2次菊川市総合計画策定に伴う「理念」について

第1次菊川市総合計画に掲げるまちづくりの基本理念、「共に生きる」「自らを拓く」「未来へ歩む」は平成15年度に「小笠・菊川町任意合併協議会」で定められたものであり、まちづくりのための原理、原則、精神的支柱などの意味で掲げられたものでありますので、第2次菊川市総合計画においても、まちづくりの理念は継承していくこととしました。

Ⅲ. まちづくりの理念

これまでのまちづくりはどちらかというと行政主導型で進められてきましたが、これからは本格的な市民主導型の“地域づくり・人づくり”を進めていきます。

この理念は、新市のまちづくりを推進する際の原則を示すものであり、新市における、これからのまちづくりにおいて、この考え方を基本とします。

新しいまちづくりの“3つの理念”

- ^{とも い}共に生きる ＜共生と協働＞
 ー市民すべてが、地域の人や自然と共に生きるという意識を高め、顔の見える関係を基本としながら、協調・協力して互いのため地域のために働くことを重視します。
- ^{みずか ひら}自らを拓く ＜自立と交流＞
 ー自分たちのまちは自分たちで創るという自己責任を踏まえた考えのもとに、自立した都市をめざすこと、ならびに生涯学習や幅広い世界との交流により、自らについてより豊かな考え方を拓くことを重視します。
- ^{みらい あゆ}未来へ歩む ＜継承と発展＞
 ーこれまでに培った地域の歴史・文化・産業をふまえるとともに、新たな視点による発展を加え、未来に向かって一步一步確実に歩みをすすめることを重視します。

＜出典：小笠町・菊川町新市将来構想より（3ページ）＞

第2次菊川市総合計画策定に伴う「将来像」(案)について

第2次菊川市総合計画に掲げる将来像については、SWOT分析によるまちづくりの課題や方向性を踏まえ、菊川市総合計画審議会や菊川市総合計画庁内策定委員会で議論を重ねてきました。現段階では「案」であり、下記の将来像を菊川市総合計画審議会で議論し、最終決定していきたいと考えています。

1. 第2次菊川市総合計画に掲げる「将来像」(案)

「みどり ときめき たしかな未来 菊川市」

菊川市は、豊かな自然環境を持つ、鮮やかな緑に包まれた地域です。「みどり」は、自然・お茶・農産業・芽吹き(誕生)・若さ・活力・郷土・安全安心などが連想され、その一つひとつが、まちづくりに必要なキーワードでもあります。

この「みどり」を活かし、市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、生活など喜びや期待に心がおどるようなまちづくり目指します。

また、これからの菊川市の未来が、魅力があり、幸せな生活環境、「住んでよかった、住みたくなるまち」として、これからも未来へ繋げ、継承し、持続可能なまちを将来像とし、まちづくりを進めていきます。

この将来像は、第2次菊川市総合計画の計画期間である平成37年(西暦2025年)の「あるべき姿」として設定しまちづくりを進めていきます。

「みどり」 自然・お茶・農産業・芽吹き(誕生)・若さ・活力・郷土・安全安心など、あふれる自然、大切にしたいふるさと、良好な環境をイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになります。

「ときめき」 これからの市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、人口増などをイメージしています。

「たしかな未来」 菊川市をこれからも未来へ繋げ、継承し、持続していくことをイメージしています。